水　産

種　目	発行者 番号	発行者 略称	教科書の記号番号	判型	総ページ数	検定済年
水産海洋基礎	201	海文堂	水産　701	Ｂ５	190	令和３年
海洋情報技術	201	海文堂	水産　702	Ｂ５	200	

※　「発行者　略称」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第２項に規定する教材）の発行予定があることを示しています。

1　調査の対象となる教科書の冊数と発行者及び教科書の番号

水産海洋基礎	冊 数	1冊
発行者の略称・教科書の番号	海文堂701	

2　学習指導要領における教科・科目の目標等

【水産の目標】

水産の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、水産業や海洋関連産業を通じ、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 水産や海洋の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

(2) 水産や海洋に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。

(3) 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

【水産海洋基礎の目標】

水産の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、水産業や海洋関連産業において必要となる基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 水産業や海洋関連産業の国民生活における社会的意義や役割などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

(2) 水産業や海洋関連産業全体を広い視野で捉え課題を発見し、水産業や海洋関連産業に関わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。

(3) 持続可能な水産業や海洋関連産業の構築を目指して自ら学び、地域の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

【水産海洋基礎の内容及び内容の取扱い】

「内容」の概要	「内容の取扱い」抜粋
(1) 海のあらまし ア　日本の海、世界の海 イ　海と食生活・文化・社会 ウ　海と環境 エ　海と生物 (2) 水産業と海洋関連産業のあらまし ア　船と暮らし イ　とる漁業・つくり育てる漁業と資源管理 ウ　水産物の流通と加工 エ　我が国の水産業と海洋関連産業 (3) 基礎実習 ア　水産・海洋生物の採集 イ　水産・海洋生物の飼育 ウ　水産物の加工 エ　海洋実習	(1) 水産や海洋について広く生徒の興味・関心や目的意識を高め、学習する意義を理解できるようにするとともに、学ぶ意欲を喚起するよう工夫して指導すること。 (2) 人間生活における海の役割や重要性に着目するとともに、水産業や海洋関連産業における課題について、具体的な事例を基に、水産物及び船の活用と関連付けて考察するよう工夫して指導すること。 (3) 地域の水産業や海洋関連産業の見学及び実験・実習などの体験的な学習活動を通して課題を発見し、その解決に向けて主体的に計画したり、提案したりすることができるよう工夫して指導すること。

３　教科書の調査研究

(1) 内容

ア　調査研究の総括表（調査結果は「別紙１」）

調　査　項　目		対象の根拠（目標等との関連）	数値データの単位
a	「海のあらまし」を扱う単元の数とページ数及び全体に占める割合	内容（１） 海のあらまし	個、 ページ数、％
b	「水産業と海洋関連産業のあらまし」を扱う単元の数とページ数及び全体に占める割合	内容（２） 水産業と海洋関連産業のあらまし	個、 ページ数、％
c	「基礎実習」を扱う単元の数とページ数及び全体に占める割合	内容（３） 基礎実習	個、 ページ数、％
d	発展的な内容を取り上げている箇所数	総則第１章　第２款　３（５）	個

イ　調査項目の具体的な内容（調査結果は「別紙２」）

①　調査項目の具体的な内容の対象とした事項

調査研究事項のａ～ｄとの関連で、次の事項について具体的に調査研究する。

ａ　「海のあらまし」に関する内容

ｂ　「水産業と海洋関連産業のあらまし」に関する内容

ｃ　「基礎実習」に関する内容

ｄ　発展的な内容の概要

＜その他＞

＊　防災や自然災害の扱い

＊　オリンピック、パラリンピックの扱い

②　調査対象事項を設定した理由等

・　学習指導要領に定められた３点の項目に関わる記述について調査することは、教科書の全体を概観する上で重要であるため調査する。

・　科目の内容の範囲や程度等を示す事項については、学校において必要がある場合、この事項に関わらず指導することができることから、発展的な内容を取り上げている箇所について調査する。

(2) 構成上の工夫（調査結果は「別紙３」）

①　主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫

②　ユニバーサルデザインの視点

③　デジタルコンテンツの扱い

「別紙1」【（1）内容　ア 調査研究の総括表 】（水産海洋基礎）

調査項目			a			b			c			d	
			「海のあらまし」を扱う単元の数とページ数及び全体に占める割合			「水産業と海洋関連産業のあらまし」を扱う単元の数とページ数及び全体に占める割合			「基礎実習」を扱う単元の数とページ数及び全体に占める割合			発展的な内容を取り上げている箇所数	
			ページ数	割合	単元数	ページ数	割合	単元数	ページ数	割合	単元数	箇所数	
発行者	教科書番号	教科書名	ページ	%	個	ページ	%	個	ページ	%	個	個	（全体のページ数）
海文堂	701	水産海洋基礎	36	18.9	16	85	44.7	18	52	27.4	20	0	190
平均値			36.0	18.9	16.0	85.0	44.7	18.0	52.0	27.4	20.0	0.0	

・全体のページ数については、巻頭・巻末資料を含めて数えている。
・各単元のページ数については、単元最初の扉ページがある場合には、そのページも含めて数えている。
・割合については、全体のページ数に対する該当のページ数の割合を、小数点第2位を四捨五入した値である。

「別紙２－１」【(1)内容　イ　調査項目の具体的な内容　　発行者　海文堂・701　】(水産海洋基礎)

調査項目		
a 「海のあらまし」に関する内容	b 「水産業と海洋関連産業のあらまし」に関する内容	c 「基礎実習」に関する内容
第1章　海のあらまし(P.1:1)	第2章　水産業と海洋関連産業のあらまし(P.37:1)	第3章　基礎実習(P.123:1)
第1節　日本の海，世界の海	第1節　船と暮らし	第1節　水産・海洋生物の採集
1　1-1　海の成り立ち(P.1)	1　1-1　船の歴史(P.37-39:2)	1　1-1　磯採集(P.123-126:3)
2　1-2　グローバルな海(P.2-8:7)	2　1-2　船の種類と役割(P.40-45:6)	2　1-2　釣りによる採集(P.127-128:2)
3　1-3　海と人間生活(P.9-13:5)	3　1-3　乗組員の編成と必要な資格(P.46-47:2)	3　1-3　網による採集(P.129-130:2)
第2節　海と食生活・文化・社会	4　1-4　船の安全な運航(P.48-52:5)	4　1-4　採集物の調査・保存(P.131-137:7)
4　2-1　海洋文化(P.14-17:4)	第2節　とる漁業・つくり育てる漁業と資源管理	第2節　水産・海洋生物の飼育
5　2-2　食生活と水産物(P.18-21:4)	5　2-1　漁業の変遷(P.53-54:2)	5　2-1　キンギョの飼育(P.138-139:2)
6　2-3　海と社会(P.22-24:3)	6　2-2　漁業生産の動向(P.55-57:3)	6　2-2　ろ過槽の配置による水槽の分類(P.140-141:2)
第3節　海と環境	7　2-3　とる漁業(P.58-63:6)	7　2-3　生き物の飼育に用いる餌料・飼料(P.142-143:2)
7　3-1　海洋の環境と役割(P.25:1)	8　2-4　つくり育てる漁業（増殖と養殖、種苗生産）(P.64-68:5)	第3節　水産物の加工
8　3-2　日本の海洋環境(P.25)	9　2-5　つくり育てる漁業の具体的事例(P.69-70:2)	8　3-1　処理・加工の基本(P.144-145:2)
9　3-3　海洋環境の保全と管理(P.26-27:2)	10　2-6　資源管理型漁業(P.71-72:2)	9　3-2　魚介類の鮮度比較(P:146:1)
10　3-4　陸水の環境(P.28-30:3)	11　2-7　資源管理の具体的方法(P.73-77:5)	10　3-3　魚のおろし方(P.146)
第4節　海と生物	第3節　水産物の流通と加工	11　3-4　イカのおろし方(P.147-148:2)
11　4-1　生物の分類(P.31:1)	12　3-1　水産物需給の現状(P.78-80:3)	12　3-5　水産加工場の見学(P.149:1)
12　4-2　魚介類の特性(P.31-32:1)	13　3-2　食品流通のしくみ(P.81-84:4)	13　3-6　流通現場の見学(P.150-151:2)
13　4-3　生物多様性(P.33:1)	14　3-3　食品流通の技術(P.85-89:5)	第4節　海洋実習
14　4-4　生態系サービス(P.33)	15　3-4　水産物の加工(P.90-104:15)	14　4-1　カッター(P.152-158:7)
15　4-5　生物の飼育と観察(P.34:1)	第4節　わが国の水産業と海洋関連産業	15　4-2　機動艇(P.159-160:2)
16　4-6　現地調査(P.34-36:2)	16　4-1　わが国の水産業(P.105-110:6)	16　4-3　体験乗船(P.161-163:3)
（計16個　36ページ）	17　4-2　海洋資源の開発と利用(P.111-116:6)	17　4-4　結索（ロープワーク）(P.164-166:3)
	18　4-3　海洋空間の利用(P.117-121:6)	18　4-5　潜水(P.167-169:3)
	（計18個　85ページ）	19　4-6　水泳(P.170-171:2)
		20　4-7　編網(P:172-174:3)
		（計20個　52ページ）

「別紙２－２」　【（１）内容 イ　調査項目の具体的な内容　c発展的な内容の概要】（水産海洋基礎）

発行者	教科書番号	教科書名	扱いの有無	扱い方（本文・コラム・写真）	取り上げている項目	記述の概要
海文堂	701	水産海洋基礎	無			

「別紙２－３」【防災や自然災害の扱い】（水産海洋基礎）

発行者	教科書番号	教科書名	扱いの有無	扱い方（本文・コラム・写真）	取り上げている項目	記述の概要
海文堂	701	水産海洋基礎	有	P8本文	自然災害	・津波発生の原理を説明している。
				P8写真	自然災害	・津波による被害を写真で示している。
				P8備考	防災	・「やってみよう！」と題し、自然災害発生時の対応方法を話し合うよう説明している。
				P8本文	自然災害	・高潮発生の原理を説明している。
				P12コラム	自然災害	・エルトゥールル号が台風で沈没したことを説明している。
				P13本文	自然災害	・河川や湖沼に関わる自然災害について探究活動の方法を説明している。
				P23図1-27	防災	・漁業や漁村には、災害救援機能があることを示している。
				P27本文	自然災害	・赤潮発生の原理を説明している。
				P29本文	自然災害	・アオコ発生の原理を説明している。
				P33本文	防災	・生態系サービスには、洪水の制御などの自然災害を防止する機能があることを説明している。
				P57本文	自然災害	・福島第一原子力発電所事故が東日本大震災によって発生したことを説明している。
				P57備考	自然災害	・福島第一原子力発電所事故が地震と津波の影響により発生したことを説明している。
				P75本文	防災	・災害対策のために埋め立てられた沿岸があることを説明している。

「別紙２－４」　【オリンピック、パラリンピックの扱い 】（水産海洋基礎）

発行者	教科書番号	教科書名	扱いの有無	扱い方（本文･コラム･写真）	取り上げている項目	記述の概要
海文堂	701	水産海洋基礎	無			

「別紙3」【（2）構成上の工夫】（水産海洋基礎）

発行者	教科書番号	教科書名	構　成　上　の　工　夫
海文堂	701	水産海洋基礎	①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫 ・各章の冒頭に学習内容が示されている。 ・ページの各所に「やってみよう」と題した課題や話題等が示されている。 ・本文の内容に関連した「コラム」が掲載されている。 ・各節の最後に「学習課題」と題した振返り学習や「探究活動」と題した調べ学習の課題が示されている。 ②ユニバーサルデザインの視点 ・なし ③デジタルコンテンツの扱い ・なし